平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

ホ

男子 女子 3回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 Aコート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
昭和学院高等学校	24	12	9	県立鹿児島南高等学校
		12	8	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

3回戦は35回目の出場、全国大会常連校となる昭和学院高校と、堅守速攻を武器に先日、初戦を突破した九州ブロック代表、鹿児島南高校との対戦である。立ち上がり、昭和学院はサイドシュートや速攻により一挙に4連続得点。スコアを4対0とする。一方の鹿児島南は④の豪快なロングシュートを軸に、果敢にゴールを狙い、流れにのせまいと必死に食らいつく。しかし、その後も昭和学院は着実に得点を重ね、前半15分経過したところで9対4とする。ここで、相手の流れを断ち切るべく鹿児島南がTO。その後、鹿児島南は、相手のミスを誘う堅いDF、展開の早い攻撃で前半を12対9で終える。後半開始5分、鹿児島南⑦の切れ味鋭いカットインから得点を挙げ、その差を一気に2点とする。このまま逆点といきたい鹿児島南だったが、要所での痛いミスが目立った。さらに昭和学院⑬の好走もあり、5連続得点を許してしまう。これを皮切りに、昭和学院は持ち味のスピードを活かした速攻で、着々と得点を重ねていく。なんとか反撃の糸口を見つけない鹿児島南だったが、結果は24対17で昭和学院の勝利。要所でのシュートを確実に決めた昭和学院に軍配があがった。

2018年 3月 26日

記載者氏名 名明 千佳

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男子 女子 3回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸

Bコート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
四天王寺高等学校	19	12	—	10	県立浦添高等学校
		7	—	12	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			

堅守速攻がモットーの九州ブロック代表県立浦添と、大阪が誇るハンドボールの名門校四天王寺の

対戦。四天王寺のスローオフから試合開始。先制点は四天王寺。③がファールをもらい②がPTを決

める。浦添もすぐに1点を返す。その後は互角の戦いが続くが、粘り強いDefから速い攻撃でゴール

をねらう四天王寺がやや優位に試合を進め、15分を経過し7対5で四天王寺がリード。よい流れを

つかんだ四天王寺は10対5まで点差を広げるが、浦添が反撃し3連続得点。10対8の時点で四天

王寺はTOを取る。その直後に得点し11対8で四天王寺が3点リード。一進一退の攻防が続き、前

半は12対10、四天王寺が2点リードで終了。

後半、浦添は⑭のポストシュートによる得点から連続得点しついに逆転。しかし四天王寺も持ち直し

8分経過時点で再び1点をリードし14対13。その後も必死のDefで守り抜き逆転を許さない。18

分過ぎから四天王寺に退場が続き浦添は同点に追いつく。流れをつかむと23分過ぎに再逆転し2点

差。その後も優位に試合を進め、22対19の最終スコアで逆転勝利をおさめた。

2018年 3月 26日

記載者氏名 正田 慎

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男ハ

男子 ・ 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点		総得点	チーム名
浦和実業高校	30	[13 — 17]	35	神戸国際大附高校
		[17 — 18]		
		[— —]		
		[— —]		
		[— —]		
		7mTC		

1回戦、2回戦と勝ち上がってきた浦和実業と、地元大応援団の期待を背負う神戸国際大附属の試合。先制は浦和実業。4番石井義がサイドシュートを確実に決める。神戸国際も13番竹内稜のポストシュートですぐさま取り返す。神戸国際は6番西田の滞空時間の長いサイドシュート、GK矢村のセーブなどで開始10分を4対2とリードする。中盤も神戸国際は4番竹内大、3番梶山らで加点していくが、浦和実業は10番神前の得点、7人攻撃による4番石井義のシュートなどで追い上げを見せる。しかし7人攻撃により無人となった浦和ゴールに、13番竹内稜、11番中村が自陣コートから連続ゴールを決め流れを掴む。終盤2番石井聖、10番神前らで加点した浦和実業。前半を4点差で終える。後半立ち上がり、神戸国際が13番竹内稜、8番松波らの連続得点でリードを広げる。対する浦和実業も、19番廣野、20番山口、3番石井聖らで失点してもすぐさま取り返すなど、後半は点の取り合いに。後半ラスト5分、退場者を出した直後の7mTを神戸国際GK矢村がセーブ。流れを引き渡すことなく神戸国際がリードを守り切り、見事勝利を手にした。

30年 3月 26日

記載者氏名 山本 紘輝

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

ト

男子 ・ 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

コート

香川中央	25	11	—	13	29	大分
		14	—	16		
		—				
		—				
		—				
		7mTC				

初戦を延長までもつれる大激戦を制した香川中央と、初戦完勝の大分、ブロック1位同士の対戦。スローオフ香川で

試合開始。香川No.9 木太のミドルで試合が動き始める。大分No.9 浜田、No.7 岡らのスピーディーで切れのある動きに香川

は翻弄され、大分4連続得点。しかし香川も、No.16 藤田の突破力を起点に、No.2 川人のループ、No.6 高尾の自らの7

mスローのリバウンド処理で同点に追いつく。さらにNo.10 寒川のロングなどで、計6連続得点で3点をリードする。

負けじと大分、コンビネーションプレーから浜田の3連続得点を含む4連続得点で逆転。その後、香川は藤田、木太の

個人技で追いつくも、終了間際、大分No.6 佐野の速攻で2点差をつけて前半が終了した。

後半の序盤は大分ペース。No.6 佐野が立て続けにミドルを決めるなど、リードを広げていく。GK野上も好セーブでチ

ームの意気が上がる。8分25秒、香川TO後、No.16 藤田のループなどで息を吹き返し互角の勝負を続ける。何とか

追いつこうとする香川OFの突破に大分DFが2度退場となるが、必死のDFで無失点で切り抜ける。香川は川人、木

太らの得点で差を詰めていくが、大分がそのまま香川を振り切り、準々決勝に進出した。

30年 3月 26日

記載者氏名 沖野 勝洋